

あけまして
おめでとう
ございます
今年もよろしく
お願いします



2020年

12月25日、令和2年度の予算編成に対し、
議会としてまとめた提言書を金田村長にお渡ししました。

 しもじょうむら

2020年(令和2年)1月15日

3号

議 会 だ よ り

第4回定例会議会概要 ……2～3ページ
 一般質問 ……4～9ページ
 三遠南信サミットに参加して ……10ページ
 災害ボランティアに参加しました ……11ページ

令和元年度 飯伊市町村議会議員研修会について ……11ページ
 議長コラム ……12ページ
 編集後記 ……12ページ

第4回 下條村議会定例会

「新たに“会計年度任用職員関連条例”が制定されました」

会期 12月6日から13日まで

令和元年第4回定例議会は、12月6日に召集され、13日までの8日間の会期で行われました。

条例の制定が2件、新規条例の制定に関連する条例改正をまとめて1件、通常の条例改正が5件、補正予算3件が提出され審議の結果11件を可決し閉会しました。

▼一般質問は、議員6名より

初日に行われた一般質問はP4以降に詳細が掲載されています。

▼条例の制定

●下條村第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の制定について

・地方公共団体では人口減少や高齢化の進行、一方で行政需要の多様化などの変化に対応するため「臨時・非常勤職員」を任用し近年その数は急増しています。採用方法等が明確に定められていないなど任用が適正に行われていない実態があります。このことか

ら「地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律」が施行され、特別職非常勤臨時職員及び臨時任用職員の任用要件が厳格化されるとともに、一般職の会計年度任用職員が創設され期末手当の支給も可能となるよう改められました。

当村でもこの制度を村の実情を踏まえたうえ運用できるように新規に条例を制定します。第1号会計年度任用職員」とは一週間当たりの勤務時間が38時間45分未満（一日当たり7・75時間未満）の一般職に属する短時間勤務の非常勤職員（い

わゆるパートタイムの会計年度任用職員）のことを言い、この条例ではその報酬、期末手当及び費用弁償について定めています。これを可決し施行は令和2年4月1日からとなります。

●下條村第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の制定について

第2号会計年度任用職員」とは一週間当たりの勤務時間が38時間45分以上（一日当たり7・75時間以上）の一般職に属するフルタイム勤務の非常勤職員（いわゆるフルタイムの会計年度任用職員）のことを言い、この条例ではその給与の支給方法、各種手当や旅費の支給について定めるもので可決しました。施行は令和2年4月1日からとなり

ります。

▼条例の改正

●会計年度任用職員に関する条例制定に伴う各種関連条例の改正の一括提案について

・会計年度任用職員関連条例の新規制定に伴い、「下條村職員の特殊勤務手当に関する条例」等、関連する9つの条例において文言の変更や追加等、軽微な一部改正が発生しており、これらが一括して提案され、可決しました。

●一般職員の給与に関する条例の一部改正について

●特別職の職員で常勤の者等の給与に関する条例の一部改正について

●議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について

民間における賃金引き上げを反映させた人

事院勧告に準拠し、一般職員、特別職非常勤職員、議員の給与をそれぞれ適及適用するほか、住居手当について実情に合うよう支給対象となる家賃額の下限を1万2千円から1万6千円へ、上限を2万7千円から2万8千円にそれぞれ改める等の条例改正を認めました。

●職員勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正について

・職員の勤務時間、休日及び休暇に関連する人事院規則の一部改正が公布され、この内容を踏まえた超過勤務命令の上限時間等を村の条例に適用させるに当たり、必要事項は規則で定めるとした条例改正で可決しました。

●下條村消防団条例の一部改正について

・人口減少の影響を受け入団対象年齢者が

減少しており団員150名体制の維持が難しい現状が消防委員会合同会議で審議の結果10名減の140名とすることで理解を得た内容が提案され可決しました。

▼補正予算

○一般会計（第五号補正）

《3100万円を増額》
総額25億500万円に

【歳入の主なもの】

「普通交付税」が2551万円の増、民生費の国庫負担金である「保育所運営費国庫負担金」が155万円の増、「母子保健衛生関係システム改修に係る国庫補助金」として76万円の増、村債として緊急防災減災事業債として200万円の増額計上。

【歳出の主なもの】
総務費として一般管理

費の寄附金の項目に台風19号被災市町村への見舞金100万円を計上、防災諸費の工事請負費として非常電源設備工事費が入札により246万円を減額、公有財産購入費として合原コミュニティセンター敷地購入費185万円を計上、児童措置費の報償費へ第2子及び第3子以降の出生数が増加したことにより出産祝い金を224万円の増、委託保育園児の増加により保育委託料を484万円を増額計上、衛生費では健康管理システム改修委託料283万円を計上、農業振興費の負担金補助及び交付金へそばの収穫の増加に伴い、買取補助として58万円を増額、「かぶちゃん遊牧館」代行取得に係る補助として172万円を計上、道路維持費として村道23号線大なぎ地籍の法面防災工事請負

費の財源補正として地方債500万円を計上、教育費では小学校の備品購入費として一、二年生用の椅子、机を75セット分の119万円を計上、合計で歳入歳出それぞれ3100万円を増額し総額25億500万円とするものを事前に詳細を各課課長より説明を受けたうえで審議に臨み、原案どおり可決しました。

○下條村国民健康保険特別会計（第2号補正）

《6400万円の増額》
総額3億1950万円に

【歳入の主なもの】

・主なものは制度改正に伴う国保システム改修費に対する県からの補助金が190万9千円の増、県支出金が給付費の増加に伴い6200万円の増。

【歳出の主なもの】
・制度改正に対応する

国保システム改修費として1910万円の増、保険給付費が増となり6201万円の増額で総額では総額3億1950万円となりました。

（この保険給付費の増は、被保険者減少のなか入院が増えており一人当たり医療費が23・4%伸び1カ月150万円以上の高額請求も昨年同時期の4倍となったことが影響しています。）

○下條村介護保険特別会計（第2号補正）

《140万円の増額》
総額4億8060万円に

・保険給付費の増額に伴い国庫負担金を28万円、財政調整交付金を10万円、支払基金交付金を37万円、県支出金を17万円を

それぞれ増とし、一般会計繰入金17万円、保険料を28万円の増額。

【歳出の主なもの】
居宅介護住宅改修費を28万円の増額、地域

密着型介護予防サービス給付費を要支援の利用者数増加により112万円を増額、審議のうえ原案どおり可決しました。





福澤利尚 議員

文化財の保存対策について

教育長 文化財マップは年度内の完成、有形文化財の案内板の更新は来年度予算に計上、歌舞伎保存会からの詳細な要望をお願いする

〔答〕串原教育長 現在村の文化財調査委員会において指定文化財の標柱や看板の設置状況と傷み具合について調査を行っております。その結果をもとに必要なものは来年度の当初予算計上して整備を行っていく計画であります。

標柱や看板は老朽化により傷みの激しいものがありますが、

有形文化財の案内板の更新について

村内に文化財に指定された物件も昭和30年頃から現在までに有形、無形又県宝重要文化財が数多くあります。現在村指定文化財は25件あります。村でも古くから伝承されている行事や伝統芸能を後世に継承して行くためにも新年度の予算編成に向けて今後継続ある助成をお願いしたいと思っております。

〔答〕串原教育長 村では下條歌舞伎は大切な伝統文化として保存継承を図るために下條歌舞伎保存会と三遠南信サミット参加負担金を村でも毎年定額の助成を行っております。下條歌舞伎保存会としてどのような助成が必要なのか、現在行っている活動内容等と予算計画など詳細に保存会として要望していただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

〔答〕串原教育長 文化財マップについては下條村の魅力発信するためにも、必要と思われま。現在文化財調査委員会を中心に年度内の完成を目指して文化財マップを作成しております。

文化財マップの作成について

〔状況と要望〕 11月17日に三遠南信歌舞伎豊橋大会が行われ、16日夜は6団体の交流会が行われ、その中で下條歌舞伎の活動内容の依



老朽化した標柱



頼があり、下條村では子供歌舞伎教室、また、中学校では授業で一年生全員が9月の清明祭の発表に向けて週一回必須で行われ、保存会は毎年11月23日に定期講演を実施し、村を上げて取り組んでおりますと内容を説明した所、各団体も人員確保に必死になっており、下條歌舞伎が羨ましいとの多くの人からの声が聞こえて

て来ました。村を宣伝する絶好のイベントだと思いましたが、来年度は浜松市での公演がすでに決まっております。また、2月9日には伊那文化会館で子供歌舞伎と保存会の2幕の公演が行われます。引き続きの支援をお願いします。



申原稔博 議員

保険事業各種検診(人間ドック・脳ドック)の補助事業について

竹村課長 現状より指定病院を増やすには各々の医療機関で単価等異なり困難。補助の間隔や自己負担金の見直しも含めて検討要

人間ドック・脳ドックについては、現在指定病院が定められています。現状は指定病院以外で検診を受けると補助対象とはなりません。受診希望者の中には、かかりつけの病院で検診を受けている方もある訳ですが、指定病院を増やす事はできないのでしょうか？

〔答〕竹村福祉課長 現在、

国保の人間ドックは阿南病院・健和会病院・輝山会記念病院の3医療機関、脳ドックは瀬口脳神経外科病院、阿南病院の2医療機関と契約を締結している。枠を広げると医療機関によってドックの単価、オプション内容等が異なり、自己負担金も変わるため病院との個々の契約締結は困難と思われるが、一度病院の窓口で負担してもらい後に償還払いする形がまれば補助も可能

と思われる。補助の間隔や自己負担金の見直しも含めた検討が必要となる。

〔答〕竹村福祉課長 補助対象の定員については、人間ドックが各医療機関12名の36名、脳ドックは、瀬口脳神経外科病院が40名、阿南病院が10名である。人間ドックについては、対象者が35名前後で推移しており、脳ドックは50名の枠に満たないのが現状です。そのため人間ドック、脳ドックともに枠が少なすぎるという現状は今のところないと考えている。

受診者の検診結果を基にして、健康管理の為の指導をする事により、健康増進の為の水中運動や一般介護予防事業の各種教室への参加者を増やしていく事につながっていく必要があると思われま。健康管理のために、積極的な支援活動に取り組みむことを期待しています。

〔答〕竹村福祉課長 検診結果を基にして現在、糖尿病教室を実施している。特定健診の結果報告会の際に水中運動教室やストレッチ教室、ウォーキング教室の紹介をし健康づくり活動につなげられるようアドバイスをしている。今後もヘルスアップポイント事業と絡め、住民の皆さんが自身の健康づくりに積極的に取り組めるよう働きかけていきたいと考えている。

〔要望〕これから先、高齢化社会を迎える中で、健康づくりの活動や医療給付に對しても、様々なサービスの提供が必要だと考えます。



ノルディックウォーキング教室

住み慣れた地域で安心していつまでも健康で過ごすことができるように、引き続き村民のための健康福祉活動に取り組んでいただくことを要望しておきます。



申原 肇 議員

村の観光事業について

①どのように発展させようとしているか？

②観光事業拡大のための提案

村長 極楽展望公園は村内観光スポットの柱であり維持管理に努める。農家民泊は検討が進めば支援していきたい。

(答)村長 村の観光事業の発展という事については観光協会を中心に取り組んでいる。特に村内の観光スポットとしては、温泉や展望公園、旧跡、自然、食などをアピールしている。

① 極楽展望公園はその柱の一つと考えている。展望公園に至る極楽林道は一昨年度路周辺の支障木伐採等整備をし、マイクロバスが無理なく通行できる様に整備を行った。待機所の増設を含め、維持管理に努める。星

村の観光事業について

下條村は県内においても有名な観光スポットがあるわけではない小さな村である。そのような中でどの様に観光事業を発展させようとしているのか。

村の観光事業拡大のための提案

- ① 極楽峠の整備
- ② 農家民泊の拡充
- ③ そば栽培の拡大
- ④ リニア・三遠南信開通に向けた周辺地域の施設整備

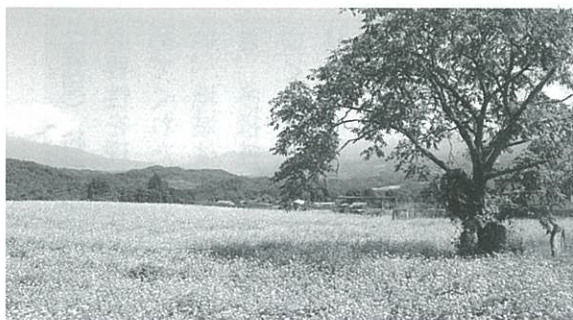
③ そばについては、本年、そば乾燥調整所を建設し、収量も本年度25・2tと近年にない豊作で粉の品質向上にもつながっている。今後とも地方の向上を図るなど増産に努めたい。そば専門店の設置支援については、出店していただける方が居れば大いに歓迎する。村内産そばを使用していただけのなら「下條村そば振興交付金」の活用、出店支援については、商工会の起業補助制度の活用等、お

空を見る為のキャンプ場施設建設等については、検討を要する。

② 農業ワーキングホリデーや農家民泊については、若手農業者の中でも思案中との事。検討が進めば、支援できる所は協力していきたい。空き村営住宅の活用については、むずかしいと考えている。お試し住宅利用者には農業体験などの提案を検討していきたいと考えている。



極楽パノラマパーク (のろしりレー実施中)



そば畑

④ リニア、三遠南信開通に向けた道の駅、コスモスの湯等の整備と火沢地区の埋立地への観光施設の設置については5月15日のリニア残土処理地検討委員会から後利用計画(案)が提出された。提案されたコンセプトの中で

検討していきたい。検討にあたっては新たな検討委員会を設置したい。

また、道の駅やコスモスの湯については埋立地の開発と一体となるよう検討して行く。なお、リニア、三遠南信自動車道の開業に向けて村特産品のブランド化、6次産業化、定住促進、交流人口の増加に取り組んでいる。

願いたいと思う。



申原 寛治 議員

①廃プラスチックの回収と排出削減について

②保育政策の充実について

振興課長 ①家庭ゴミの適正処理が大事、住民の意識を高めたい

教育長 ②保育所の完全給食には、施設・調理員の増員が必要。慎重な検討を要する

(答)宮島振興課長 家庭でゴミを適正に処理することが最終的に環境保全につながる。講演会も大切だが、地域への指導、チラシにより住民の意識を高める。村のゴミカレンダーに農業用廃プラ回収案内を掲載したり、商工会を通じて削減効果が出るよう検討する。

(答)宮島振興課長 J Aが村内の廃プラ回収を年一回行い、5から6t集めている。費用の3分の1を村で

農業分野での、廃プラ削減も必要だ。微生物の力で分解される「生分解性マルチ」がある。価格が高いが、補てんして活用を促しては。

マイクロプラスチックなどによる地球規模での環境汚染が指摘されている。プラスチック製品の使い方について自覚を高めるための講演会等を計画したり、村内の関係機関と連携し村ぐるみで回収、削減の取り組みを強めるべきではないか。



ゴミ処理施設におけるゴミチェックの様子

① 保育園の耐用年数や今後建て替え・改修などの計画は？

(答)申原教育長 平成3年に建設し29年経過した。その間増築や、設備改善を行った。今の所不都合を感じることがないので維持管理を行って長く使っていく。

補助している。「生分解性」の商品が開発され、農作業の効率化や環境保全のためには有効と考える。支援は、栽培規模も踏まえ今後検討していく。

保育政策の充実について

② 3歳児以上も、未満児と同じように、保育園でご飯とおかずを作って、完全給食することを検討しているか

(答)申原教育長 3歳児以上の保育料は無料化となったが、副食費(おかず)は、那下(13町村中)7町村が集めている。副食費含め保育料無料化は下條村含め6町村が行っている。弁当持参は下條村を含め7町村。弁当持参は、毎朝ご飯を炊き食べる大切さを伝える意義がある。完全給食には、施設や、調理員の増員などあるので慎重に検討が必要。

③ 未満児保育の受け入れ要望が強くなっている。大変だが1歳となったら離乳食完了前でも受け入れる対応を検討するべきでは。

(答)申原教育長 子供の発達状況が違うので、完了していない子供に対応した離乳食作りは、今の体制では

無理がある。利用要望等調査して検討していきたい。

④ 未満児保育中に、次の子供が生まれた場合、上の子供が退園となってしまうケースがある。産後一年間の大変な時に負担を軽減できる様、引き続き保育を希望する方には受け入れを。

(答)申原教育長 利用したい家庭の状況や事情を聞いて必要と認められれば受け入れられるよう検討する。

⑤ 幼児教育・保育の無償化がされる。さらに未満児の保育料を補って若者世帯の支援強化を。

(答)申原教育長 未満児の受け入れは、一番利用の多い(所得)階層の保育料が国の基準の約59%で郡下で上から7番目だ。

未満児の中で保育利用者が限られており、適当な額と思われるのでこのままでいく。



田中 兼次 議員

台風防災と下條村地域自主防災組織の連携について

総務課長 平素からご近所、組内同士で自助・共助できる仕組みを各自主防災組織内で検討していただきたい。

台風19号接近時における村の安全対策と避難についての様な対応をしていたか。

〔答〕吉村総務課長 〔台風19号の概要説明〕10月6日にマリアナ諸島付近で発生し12日19時前に静岡県下田付近に上陸。長野県には12日昼過ぎから降雨が一段と強まる。東北信を中心に30市町村に対し18時10分大雨特別警報発表。10月24日の長野県内死者5名、住宅被害9578世帯。11月25日現在13か所251世帯567名が避難所生活、甚大な被害となっていました。

下條村では12日7時40分暴風警報発表。9時災害警戒本部設置。10時56分大雨注意報発表。11時自主避難所開設。12時18分洪水注意報発表。19時自主避難所閉鎖。19時30分災害警戒本部解除。総雨量78ミリと県北東部に比べ非常に少なく風も同様にて、人住家、農作物被害も無く安堵。

村では予め接近予報などから防災対策としてライフ

ラインの確保に努める為電力、電話会社、国道事務所等と連絡先担当者名を確認し職員が誰でも対応できるように災害警戒情報連絡先と明記し情報共有しました。また昼夜問わず水道担当者による水源見回りや、氾濫予想箇所の事前確認等を行いました。長野県気象台と連絡を密に対応する中、村内の降雨予想は集中しても長期化しない事前予想から、土砂災害警戒区域の住民に個別の連絡は控えていたが、自主避難を希望される方の為に自主避難所開設準備対応を行いました。村民へは最接近予想の2日前の10日昼から防災無線と音声告知により台風被害抑止を促す為、主に用排水路の落ち葉除去協力をお願いしました。

〔答〕吉村総務課長 ご指摘の通り自主防災組織本部長

（区長、常会長）と村が緊密に連携し情報共有する事は非常に重要と認識しています。また災害等の発生が差し迫っている時期に自主防災組織で住民の個別見回りや所在確認は返って危険な事も予見されます。10名の死者を出した宮城県丸森町では風雨が本格化する前に避難の呼びかけを行った区長の9割が「大丈夫」と避難を断られ、早期避難を促す難しさが浮き彫りとなりました（信毎記事参照）とあります様に、自分の身は自分で守る為には早めの避難が重要である事を認識して頂きたいと思えます。自主避難所を開設した際は放送を用いて住民周知を行います。村としては地震等の突発災害を除き、予め予見できる災害等には警戒本部を立ち上げ、状況により消防団の地域巡回広報など見回り対応してまいります。災害が差し迫る前や平素からご近所、組内同士で自助・共助できる仕組みを各自主防災組織内で検討（見回り班等の設

置）して頂きたいと思えます。また今年度取り組んでいる地区防災マップ基図作成の様に防災について日頃から一人一人が考え意識していかなければならないテーマと考えます。

今回の村の防災対応については大変理解でき、今後の防災の取り組みについても同感であるが、災害予想が認められる時は村の防災方針について事前に地域自主防災組織と情報共有が地区防災に取り組み上で地区に有用では。

〔答〕村長 地区防災は地区の実情をよくわかつている地区組織が自助・共助していく事が重要ですが、現況の地区防災長は区長、常会長が兼任しており毎年変わってしまう事も再検討する必要があります。



丸山 浩子 議員

下條に住む外国人が安心して住み続けるために

教育長 必要とされる限り日本語教室を続ける

外国人から来ている人たちの人数や状況を差障りない範囲で知りたい。

〔答〕串原教育長 住民登録データで拾うと、外国人登録者が37人。そのうち、結婚されて日本に来たと思われる方24人。就労(研修生)と思われる方8人。他5人は不明です。この他に5人の方は日本国籍を取得しています。

日本語教室は、中国から嫁いできた女性たちが日本語を覚え日本の暮らしに馴染んでほしいと考え、平成25年から教育委員会の事業として取り組んできた。今年11月までの参加者は約20人、年平均12回の集まりをもってきている。日本での在学期間が長くなり、下條の暮らしに溶け込んで言葉の自由が減ってきたためか、ここ3年ほどは、1回の参加人数が平均3.5人、4.8人と少なくなってきた。が、外国から来ている人たちの心の拠り所として存続

させる事が重要と思われる。村としての考えは？

〔答〕串原教育長 この事業は、外国人の花嫁や就業のため来日する人が増加する時期に始まりました。村の結婚相談の事業として中国からの花嫁を積極的に推進した経緯があります。この日本語教室事業をスタッフの皆さんの協力を得て実施してきました。立派に村の住民として生活している方々には、日本語教室が心の拠り所として大きな役割を果たしているといえます。スタッフの皆さんの協力を敬意を表します。参加者が減少傾向にあることは承知しておりますが、それぞれの家庭の事情もあり、これ以上参加者を増やすのは無理ではないかと感じています。年度初めに、該当者に参加案内を出し、少しでも多くの方に参加していただけるように努めています。地道な取り組みをしていくしかないと思います。

国籍に関係なく共生することの大切さを体験する「ふ

れあい交流会」のような催しを行い、日本語教室を発展させたいと考えるがどうか。

〔答〕串原教育長 日本に帰化した人を中心に、長年この日本語教室に参加し、村に馴染んでいる方は本当に良かったと思えます。一方で、このような教室に参加できず、村に馴染めない方も多くいると思えます。こういった方が何とか教室に参加できるように取り組むが出来ればと思います。この日本語教室が必要だという声がある限り、続けていこうと村では考えているので一層の



日本語教室 開催中

ご協力をお願いします。

〔要望〕 村が日本語教室の必要性を理解し、存続を認めてくれたことはありがたい。地域住民として共に生き、多様性を生かして共につくることを、地域づくり・村づくりの基本の一つにして、共生社会の実現に尽力していただきたい。

「第二十七回三遠南信サミット」に参加して

去る10月30日、飯田市で鼎文化センターをメイン会場に、第27回三遠南信サミット in 南信州が開催された。下條村からも村長、副村長、議会議員全員、役場担当職員が出席した。このサミットは、愛知県東三河、静岡県遠州、そして南信の三つの地域が、県境を越えて連携し、広域的な地域づくりを進め



る目的をもって、2008年、「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」が設置され、以来開催が続いている。第24回三遠南信サミットは、同じく飯田市で行われている。午後1時開始のサミット全体会には、当該する地域から行政、経済界、住民、大学などの代表およそ500名が集まり、会場は一杯となりサミットへの関心の高さを示した。開会式冒頭、主催者である鈴木康友浜松市長、開催地代表の牧野市長、続いて柴田飯田商工会議所会頭があいさつに立ち、「人口減少時代と正

面から向き合う広域連携」、「三遠南信が目指す新ビジョン」によるプロジェクトの進展、「地域防災を見つめなおした安全安心の広域生活圏

づくり」、「スーパーメカリージョン」を見据えた産業、人づくり構想」など、サミットの姿勢が強調された。このサミットは出席者が一堂に会する全体会および、テーマにより分かれる連携検討会の2部構成であった。全体会(13時)は「新たなビジョンの始動」将来に向けて今すべきことをテーマに、資料として、パネルディスカッション「三遠南信地域とスーパーメカリージョン構想」および本地域の発展の方向性を明確に示す三遠南信地域都市圏の創生をテーマにした「第2次三遠南信連携ビジョン」(計画期間が2019年〜2030年)が出席者へ配布された。全体会では、牧野市長をコーディネーターとし、4名の

パネラーから「三遠南信地域とスーパーメカリージョン構想」について力強く解説があった。名古屋都市センター長奥野信宏氏は、リニア中央新幹線の開業を見据えた2050年の姿として、全線開業後には人口7000万人に上る巨大な広域都市圏が誕生し、東京他3大都市圏とリニア沿線都市が一体となって列島の成長を牽引し、沿線全域で出生人口の増加に貢献する。また、リニア後の飯田市を三遠の新たな玄関口とした。浜松・浜名湖ツーリズムビューロー理事前田忍氏は、三遠南信地域の観光資源とインバウンドの経済効果、また、広域観光の連携の可能性および地域ブランドを発信、磨き上げ「ほんもの」にすることの重要性など観光振

興について説いた。連携検討会は「道」「住」「技」「人・風土」の4つのテーマが用意されたが、下條村は「住」へ参加した。会場の鼎体育館には、広い床一杯一枚紙で作られた三遠南信地域全体の大型地図が用意されていた。この地図を用い、減災戦略づくりで実績のある福和伸夫名古屋大学減災連携研究センター所長がプロジェクト上へ説明資料を投影し、当該地域の事件を解説する手法を用い、被災により必須となる電気、水、石油ほか、広域連携支援について解説を受けた。

以下は私の感想ですが、今からの10年、策定成った「第2次三遠南信連携ビジョン」の目標を実現するには、県境を接する3つの地域の住民、経済界、行政がビジョンに対し迷うことなく真摯に取り組むこととあります。その成果は、3地域はもとより、ことに下條村等山間にある中小自治体のこれからの繁栄に係ってきます。サミットの関係者、もとより住民が弛まぬ連携と相互扶助の精神を育て、リニア時代に向け、3地域が手を携え経済振興、発展に邁進し、また防災連携を確実なものとした。そのためにも、今後ともこのサミットが毎年欠かさず開催され、その成果、結果が全国に波及、手本になることを願うと同時に、三遠南信自動車道の早期完成が待たれます。

(文責 塩沢道雄)

災害ボランティアに参加しました

去る11月24日に下條村社会福祉協議会の災害ボランティア(バスパック)に参加しました。役場職員、村民の方達16名(うち高校生3名)で早朝5時30分、村のマイクroバスで出発し、9時過ぎに長野市津野ボランティアセンターへ到着。当日は好天に恵まれました。バス駐車場からセンターまで10分余り、被災地の住宅地の道路を通りましたが、ほとんどの家の一階は濁流で流され壁が落ち、鴨居の部分まで泥まみれとなっており倉庫や納屋はほとんど手付かずでした。流れてきた瓦礫や家庭の災害ゴミが当時のままの姿となっており実に悲惨な光景でした。テレビの災害現場の放映ではほんの一部分ですが実際の現地で目にした時にはただ驚く

参加しました

ばかりでした。係の方の話では災害当初から比較するとボランティアの数も非常に少なくなってきた。冬に向かっって寒さの対策も考えなければならず、社協の方達も悩みの種だと嘆いていました。作業中、高齢のリング農家の男性と話す機会があり、今回の台風十九号で農業機械は流されたり泥まみれで使用できなくなり、S・Sやトラクター等高価な機械を今更買つてまで農業を続けることは出来ないと家族と話し合い、50年余り続けてきたリンゴ栽培を諦めた涙を流して話してくれました。

リングの幹の周り直径6メートルくらいに30センチ余り堆積していた泥を除去し積み上げた農家が目立ちました。ボランティアの方達の力を借りて作業が行われたことがよく分る光景でした。作業は午後3時過ぎに終了、センターに戻った時、地元の方が「心ばかりのお礼です」と温かいとん汁を作ってくれました。今回のボランティアに参加して被災地の皆さんが元の生活に戻るにはまだまだ相当な時間を必要とすることを痛感しましたが、帰りの車内で村の社協で今回のような企画があれば参加しますとの意見が多く聞かれました。「大勢の人の力ってすごいな」と感じ、大変な作業ではありましたが有意義な一日となりました。

(文責 福澤利尚)

飯伊地区議員研修会に参加

10月31日午後1時30分より飯田市の消費生活センターで飯伊地区議員研修会が開催されました。最初の講師は売木村の地域おこし協力隊員の五月女ニージーアレクサンダーさんでした。1974年ベルギーで生まれ、ドイツ留学、オーストリア大学卒業後、日本の各地で生活した後2017年5月から売木村に移住し、地域おこし協力隊として観光課インバウンド担当をされています。欧州でも若者は都会へ出てしまうそうですが、日本の文化が大好きなアレクサンダーさんは、私達が当たり前だと思っている生活文化でも、おもしろいことをすれば人が集まるのではないかと考えているように参考にしたと思います。築百年以上の古民家を改修した「うるぎ国際センター」を活用し外国からの訪問者を

増やすインバウンド増に努めるそうです。次に、拓殖大学の山本尚史教授の「エコノミックスカーディングの推進」地域の価値のさらなる向上・維持を図るために「初めて聞く言葉でしたがこれは、地域経済を救う活性化のプログラムであり、研究をすることにも、これを実施しようとする地方自治体を支援しているということでした。日本の「現状」が、大都市圏へ人口が集中し、バブル期以降、国の構造改革などにより、地域外企業や、大型店の地方進出により、利益が都市部に流し、地域経済の危機は遠くないかもしれないとされているが、「将来」に向けては、国の進める「まち・ひと・仕事創生総合戦略」などにあるように、東京一極集中の是正をするた

めに、多い地方への移住希望者に答えて、新しい流れを作り、若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現を図り、地域の特性に即した課題の解決を図る事が、今後の基本的な視点とされていた。地域再生には、地元出身者をカギとした「関係人口」を重視し、ピンチをチャンスととらえ、「地域への愛と誇りを持ち、自主的自立へのビジョンと自尊心」を持って、地域で中心となつて活躍する人たちのネットワークを作り、他からの情報を伝える学習をすることが、地域の「産業のDNA」を継ぐ力競争力」の源流となるなどとされていた。「エコノミックスカーディング」はアメリカで考えられて実施され、日本でも多くの自治体で実施中・計画中心とされています。今後、先行事例を参考に地域再生のために役立てたい講演でした。

(文責 串原寛治)





議長コラム

三遠南信自動車道の天龍峡大橋が開通して、車道の下にある「そらさんぽ」と名付けられた歩道橋が散策する人で賑わっています。もう歩かれた方も多いと思いますが、歩道橋の中央付近から眺める、飯田線の鉄橋と船下りが見える天龍峡の風景はとて人気があり、歩道の撮影スポットには電車が鉄橋を渡る時間が掲示されているほどです。この橋は天龍峡の自然景観に配慮したとて



も美しい形をしています。そのデザインや設置位置の検討に造園や風景計画の専門家が重要な役割を果たしており、同じ分野に関わってきた者として、とても嬉しく思っています。天龍峡大橋の写真は新聞やSNSなどで沢山紹介されていますが、私が撮ったお気に入り写真、白い靴を履いたような橋脚の足元が見える風景。細長い胴体の足のように、橋の開通による人や物流の新たな動きを背中ですっきり見守っているような気がします。

道が時代を変える。たとえば、下條村では国道151号線の改良工事ではないでしょうか。なかでも、吉岡城址の真ん中を直線で通過した工事

は、その後の地域の様子を一変させました。合原入口から新井入口までのほぼ直線の区間は約1キロ、自然界に直線は無いと言われますが、どんな直線も造り上げていく人の英知と、それによって変わっていく地域の営み、地域づくりにとってとても大切な視点だと思えます。

そして、永年の悲願であった粒良脇トンネルの改良が事業化され、今年中には掘削工事が始まります。トンネルの開通は難渋した大型車の通行を改善しますが、村にはどんな変化をもたらすでしょうか。

村議会では下伊那南部地区議員会での発注機関への提言や、国や県への要望活動を繰り返し行ってきましましたが、引き続きトンネルの早期完成と安全で環境に配慮した工事の遂行を要請していきます。

議会カレンダー (過去活動分と今後の予定)

- 10月** 24日(木) 令和元年度第3回議会臨時会(全議員)
泰阜村・下條村議会 交流会(全議員)
- 11月** 27日(日) 村制130周年記念村民運動会・焼肉大会(全議員)
- 10日(日) 村制130周年記念 下條村縦断駅伝大会
- 21日(木) 村制130周年記念第44回村民ゴルフ大会
- 23日(土) 村制130周年記念文化の祭典
- 12月** 5日(木) 12月議会 補正予算説明会(全議員)
- 6日(金) 令和元年第4回議会定例会初日(全議員)
- 10日(火) 総務文教・産業建設・民生福祉委員会(各委員)
- 13日(金) 令和元年第4回議会定例会 最終日(全議員)
- 20日(金) 明るい選挙推進飯伊地区大会講演会(全議員)
- 25日(水) 南部地区議員会交流会
↳ 南信州地域振興局長との懇談(全議員)
- 1月** 9日(木) 交通安全祈願祭(正・副議長)
- 11日(土) 下條村消防団出初式(議員全員)
- 今後の予定**
- 22日(水) 長野県地方自治政策課題研修会(議員全員)
- 23日(木) 飯田市議会主催飯伊市町村議会議員研修会(議員全員)
- 2月** 15日(土) 健康を考えるつどい(議員全員)
- 3月** 1日(日) 消防団 任免命式(議員全員)
- 10日(火) 令和2年第1回議会定例会初日(全議員)
- 18日(水) 小・中学校卒業式(議員全員)
- 24日(火) 令和2年第1回議会定例会最終日(全議員)
- 29日(日) 道の駅お客様感謝デー

編集後記

▼あけましておめでとうございます。昨年4月末に新たな議員体制になってから発行が始まったこの「議会だより」も今回で第3号目、新年号としてこうして無事発行できる運びとなりました。▼平成31年〜令和元年も振り返ってみれば長野県内は異常気象により凍霜害や降雪、台風による大規模な災害に見舞われ波乱の一年となりました。今年は「気候は平穏に、議会活動は活発に」で推移して欲しいものです。▼今年もどうぞよろしく願っています。



編集委員会

- 委員長 熊谷 政孝
- 副委員長 塩沢 道雄
- 委員 串原 寛治
- 委員 串原 肇
- 委員 丸山 浩子